

加賀友禪

歴史

加賀地方には、約500年前ごろすでに梅染と称される無地染があった。無地染に模様が登場するのは、17世紀の中頃で、黒染の兼房染、色絵、色絵紋(加賀紋)がはじまった。これらを総称してお国染と呼ばれ、色絵防染に一陳糊が使われるようになり、友禪染が発達する素地ができていた。

正徳2年(1712年)宮崎友禪斎が京都から金沢の紺屋・太郎田屋の元に移り住み、加賀染を飛躍的に発展させた。友禪染は模様染の創始ではなくデザインの革新であり、友禪斎は加賀染に友禪画風をなびかせ、新しい模様を生みだし、それが後に加賀友禪と称されるようになった。

一方、18世紀末、金沢で板場友禪(型友禪)が起こり、袴や羽織に繊細な小紋が染められていた。

特色

友禪染は、日本独自の染物であり、写実的な草花模様を中心とした絵画調の柄で、京友禪の図案調と対照的である。色合では淡彩の京に対し、多彩で濃い色調と三色ぼかし、アクセントに虫喰いなどの表現、友禪五彩(臙脂[えんじ]、藍、黄土、草、古代紫)などが使われ、独自の雰囲気を出している。なかでも、ボカシの技法は、京友禪の内から外へのボカシに対し、外から内にぼかすため優美な趣をもっている。

作業工程は京都ほど分業化が進んでいないため、量産には不利だが、逆に一貫性のある製作ができる。また、友禪流して仕上げるため、本染めの味があり、防染のための糸目糊の細い白線が効果的に生かされている。

板場友禪は、模様を彫った型紙によって白生地の上に繊細な絵模様を染めるもので、手描友禪とは別な魅力がある。

昭和53年7月13日石川県無形文化財に指定された。



가가유젠

역사와 특색

가가유젠의 역사는 지금으로부터 500년 전, 당시 가가지방의 독창적인 무지염색인 '우메조메'로 거슬러 올라간다. 17세기 중엽에 우아한 정취를 자아내기 위해서 문양과 도안이 도입됐으며, 이 기법이 현재 가가유젠의 염색기술로 발전해 갔다. 1712년, 교토의 화가인 미야자키 유젠사이가 염색소인 '다로다야'에 초대됐으며, 그의 디자이너로서의 뛰어난 기법은 가가유젠을 크게 발전시키는 데 기여했다.

가가유젠은 꽃, 새, 풍경 등의 자연을 사실적으로 묘사하고 있어, 도안풍의 교유젠과는 좋은 대조를 이룬다. 염색기법은 문양을 바깥쪽에서 안쪽으로 흐리게 하는 선염을 사용하여 우아한 분위기를 자아내고 있다.

정보

주나生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
주나製品名(주요 제품명)	訪問着, 留袖, 和装小物等(정장 기모노, 기혼여성의 예복, 일본식 옷차림의 소품 등)
주나生産者(주요 생산자)	協同組合加賀染振興協会(협동조합 가가유젠 진흥협회) 〒920-0932 金沢市小將町8-8(가나자와시 고쇼마치 8-8) TEL (076)224-5511 FAX (076)224-5533 MAIL info@kagayuzen.or.jp http://www.kagayuzen.or.jp